

授業科目(ナンバリング)	介護における医療的ケアⅡ(介) (DB317)			担当教員	石橋 亜矢・田中千恵美		
展開方法	講義・演習	単位数	2単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>介護における医療的ケアⅠの理解の上に、<u>医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという視点から、経管栄養について、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどを通して、必要な知識技術を修得できる学修とする。</u></p> <p>経管栄養についての知識を修得し、シュミレーターを用いて一人で経管栄養が実施できるようになる。この演習を通して、専門的知識・技術を修得し、それらを様々な課題に適用して解決できることをねらいとする。</p>							②③⑦⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	人体の構造と機能を理解でき、経管栄養について根拠に基づく手技が実施できる。				定期試験 実技試験	25% 35%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる。				実技試験 プレゼンテーション	10% 5%	
協働・課題解決力	利用者や家族、チームに対するコミュニケーション能力を高め、観察した事柄を的確に記録することができる。				課題レポート 実技試験	5% 10%	
多様性理解力	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる。介護職の中で中核的な役割を担うことができる。				定期試験 実技試験	5% 5%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「定期試験」(30%)は、合格基準を60点以上とし筆記試験(持ち込み不可)を行う。経管栄養の11回までの講義終了後、「実技試験」(60%)を行う。経管栄養の実技については、シュミレーターを用いて経管栄養の実技チェックを行いながら実施する。「課題レポート」(5%)を課し、ポートフォリオ上にてフィードバックし共有する。「プレゼンテーション」(5%)は、ケアの根拠についてPPを作成し実施したものを評価する。評価は、筆記試験と実技試験及びプレゼンテーションを総合的に評価する。</p>							
授業の概要							
<p>医療現場で認定看護師資格と経験をもつ教員(医療的ケア教員資格保持者)が担当し、現場実践を活かした学修を行う。経管栄養について、1~11回まで講義する。11回目で経管栄養法についてプレゼンテーションを行う。その筆記試験により知識の修得を確認した後、12~15回で胃ろう又は腸ろうからの経管栄養、経鼻経過栄養について演習を実施する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。(8~15回は、田中先生と実技指導)</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：最新・介護福祉士養成講座15『医療的ケア』 中央法規 発行者：荘村明彦  参考書：『ぜんぶわかる 人体解剖図』成美堂出版  指定図書：介護福祉士国家試験 受験ワークブック2020下 中央法規</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>食事は、生命維持に必要なことだが、単なる栄養摂取というだけではない。口から食べることの大切さをわかった上で、経管栄養に対応してほしい。</p> <p>医療的ケアとしての経管栄養法の講義を通して、筆記試験、実技試験の修得に向けては、自ら取り組む姿勢が必要である。</p> <p>注意点：経管栄養についての演習、実技チェック・実技試験となるため、必要時に補講を行う。また本授業は50時間以上の講義を受けていないと単位の取得ができないため、欠席しないように体調管理に留意する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」①	個人の尊厳、医療ケアの基本的考え方を学ぶ。消化器系器官のしくみとはたらき、嚥下のしくみ、消化器系器官各部の名称と構造について学ぶ。	予習：消化器症状を覚える 復習：人体の構造、嚥下のプロセスを整理する
2	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」②	人体の構造、消化器の症状について学ぶ。さらに、経管栄養が必要な状態について学ぶ。	予習：人体の構造を理解する 復習：経管栄養の種類を整理する
3	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」③	経管栄養のしくみと種類について学び、生命維持における栄養・水分摂取・消化機能の重要性を理解し、経管栄養で注入する内容について学ぶ。	予習：経管栄養の種類を調べる 復習：経管栄養の種類やしくみを整理する
4	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」④	経管栄養に関係する消化器感染を示す状態や、経管栄養を行っている状態での感染予防や、口腔ケアの重要性について学ぶ。経管栄養実施上の留意点について学ぶ。	予習：経管栄養剤の種類と留意点を調べる 復習：感染予防、経管栄養実施での留意点
5	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」⑤	小児の経管栄養に使用する物品や使用方法について学ぶとともに、小児の経管栄養での留意点をプレゼンする。	予習：小児の経管栄養の適応を調べる 復習：小児の経管栄養での留意点
6	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」⑥	経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちや、その気持ちに沿った対応や、説明や同意について学ぶ。経管栄養により生じる危険や、注入後の安全確認について、ヒヤリハット・アクシデント、危険防止のための医療職との連携体制について学ぶ。	予習：経管栄養を受ける人の気持ちを考えてくる 復習：経管栄養の安全な実施について整理する
7	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」⑦	緊急を要する状態を理解し、急変・事故発生時の対応、医療職との連携や体制など事前対策について学ぶ。経管栄養を実施する際の安全管理を学ぶ。	予習：緊急時対応を調べる 復習：急変時の対応を整理
8	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」の実施手順①	経管栄養で用いる器具・器材のしくみとその清潔保持、挿入部の消毒や消毒薬について学ぶ。また、経管栄養の必要物品の準備や設置方法と留意点、経管栄養前の利用者の状態観察と留意点について学ぶ。	予習：必要器具を覚える 復習：必要物品の準備・管理、実施前の利用者の観察を整理する
9	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」の実施手順②	経管栄養前の利用者の準備と留意点、並びに、経管栄養実施手順と留意点について学ぶ。	予習：経管栄養実施手順 復習：経管栄養の手順・留意点
10	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」の実施手順③	経管栄養実施中の利用者の身体変化の確認や医療職への報告について学ぶ。さらに、経管栄養実施後の手順と留意点、利用者の身体変化の確認と医療職への報告について学ぶ。(石橋・田中)	予習：医療職への報告について調べる 復習：実施中の観察項目や報告について整理する
11	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」の実施手順④	医療職への報告、連絡方法や記録の意義と記録内容・書き方についても学ぶ。経管栄養法のプレゼンテーションを行い、ポートフォリオ上に提出する。(石橋・田中)	予習：プレゼンテーションの準備 復習：記録の方法について整理する
12	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」の実施①	シュミレーターを用いて経管栄養の実技を行う。経管栄養（胃ろうまたは腸ろう）の必要物品を確認し、手順を確認しながらデモンストレーションを行う(石橋・田中)	予習・復習：胃ろう・腸ろう経管栄養法の実技を手順に沿って練習する
13	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」の実施②	シュミレーターを用いて経管栄養の実技を行う。経管栄養（胃ろうまたは腸ろう）の必要物品を確認し、手順を確認しながらデモンストレーションを行う(石橋・田中)	予習・復習：胃ろう・腸ろう経管栄養法の実技を手順に沿って練習する
14	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」の実施③	シュミレーターを用いて経管栄養の実技を行う。経管栄養（経鼻）の必要物品を確認し、手順を確認しながらデモンストレーションを行う(石橋・田中)	予習・復習：経鼻経管栄養法の実技を手順に沿って練習する
15	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」の実施④	シュミレーターを用いて経管栄養の実技を行う。経管栄養（経鼻）の必要物品を確認し、手順を確認しながらデモンストレーションを行う(石橋・田中)	予習・復習：経鼻経管栄養法の実技を手順に沿って練習する